



学生の
勇姿!

今年も開催!

第48回 大学祭 (宴祭) *My Place* ~みんなの協和国~

5月25日(土)、26日(日)の2日間、大学祭が開催されました。今回の大学祭のテーマは「My Place~みんなの協和国~」。この大学祭が来場した人たちにとって自分の居場所と感じられるようにという思いがこめられています。

大学祭の当日は天候にも恵まれ、たくさんの来場者と、大学祭を楽しむことができました。B棟校舎内では、各研究室の研究展やクラブ活動の展示、占いなどが行われ、屋外、中庭では各クラブや研究室、他大学の学生によるさまざまなブース、ウォークラリー、カラオケ大会、ピンゴ大会などが行われました。またD棟ではわらべ村が開かれ、子どもから大人までたくさんの人たちが楽しんでいる場面を見ることができました。

後夜祭のプロコンサートでは、ゲストとしてJulietを迎え、会場が一体となって盛り上がっていました。また、大学祭実行委員会が振り付けをしたダンスで会場のボルテージも最高潮となりました。最後には盛大なレーザーショーと花火でフィナーレを迎えました。参加した人たちの思い出に残る素晴らしい大学祭となりました。

(写真・文章提供:アルバム委員会)



学生の
勇姿!



アルバム委員会の学生による 撮影レポート

クラブ委員会主催 クラブ対抗ボウリング大会

6月8日(土)、クラブ委員会主催のクラブ対抗ボウリング大会が行われました。始球式では、クラブ委員が光るボールを使い、大会の幕を開けました。序盤から会場は非常に盛り上がりストライクを取ったらハイタッチをし、ガターになって共に笑い励まし合い、会場の雰囲気は素

晴らしいものとなっていました。

表彰式では、スコアの高い上位入賞者の表彰はもちろん、あらゆる順位の人にも表彰されるため、ボウリングが苦手な人でも楽しんで参加することが出来ました。今まで各クラブで培ってきたチームワークを駆使し、チーム一丸となっ

て入賞を目指すことで、運動部だけでなく文化部もおおいに盛り上がることができました。チーム同士の交流もあり楽しい大会になっていまし

成績結果

団体

	団体名	チーム名
1位	フットサル研究会	フットサル
2位	選挙管理委員会	Max out
3位	バドミントン部	F55

個人

1位	大串 慧光(A11)
2位	鈴木 伸達(S11)
3位	北岡 佑介(M10)



バレーボール部試合

5月11日(土)、大同大学石井記念体育館で「東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会二部リーグ」が開催されました。

私たちアルバム委員会もその勇姿を写真に収めるべく撮影に行きました。

アタックの瞬間を撮影しようと構えていたので

すが、アタックを打つ直前にあるフェイントの、見事な連携技に魅せられてしまい、アタックの瞬間を撮影することがとても困難でした。

白熱した試合にこちらも胸が踊り、試合終了まで集中して撮影することができました。



大同大学奨励賞 表彰式

4月23日(火)、大同大学奨励賞の表彰式が行われました。この大同大学奨励賞は部活動などの課外活動や研究活動、その他社会貢献活動で優れた功績を残した、個人、団体に送られる賞です。

今回は、課外活動で顕著な功績を残したロボット研究部の森健二さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻2年)とハンドボール部が大同大学奨励賞を受賞しました。

表彰式には、澤岡昭学長、井上孝司学生部長(工学部 機械工学科教授)、西堀賢司特任教員(大会優勝当時のロボット研究部顧問/工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)、

佐藤壮一郎准教授(ハンドボール部監督/情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)のほか、ロボット研究部の森さん、ハンドボール部の杉山拓也さん(主将)、田代息吹さん、中嶋洗平さんが出席しました。

ロボット研究部の森さんは、日本科学未来館(東京)で開催された第6回ROBO-ONE Lightで優勝。海外からの参加も含め、76機のロボットの頂点に輝きました。

ハンドボール部は、京都で開催された西日本学生ハンドボール選手権大会で3位入賞という成績を残しました。西日本学生選手権大会は、近畿をはじめ西日本の強豪大学32校が出場す



▲杉山拓也さん(左)



る大会です。

両クラブとも今後ますますの活躍を期待しています。



▲森健二さん(左)

ロボット研究部

山車のからくり人形保存活動が 朝日新聞で紹介されました

5月15日(水)、16日(木)に開催された名古屋三大まつりのひとつ、若宮まつりにおいてロボット研究部の中野博貴さん(大学院工学研究科修士課程 機械工学専攻1年)と卒業生の山本晃大さん(06R)、今井健人(09R)さんの3人が山車のからくり人形を操る人形方を務めました。この活動が記者の目にもとまり、取材を受け、5月13日(月)の朝日新聞で紹介されました。中野さんらは、福祿寿車山車保存会の活動に3年前から加わっています。

若宮まつりで使用される山車は江戸時代から伝わるもの。山車に載るからくり人形を中で操る人形方、山車を進める楯方、おはやしを奏でる囃子方が一つになることで山車は成り立ちます。からくり人形は滑車や歯車、ぜんまいと

いった大小さまざまな木製の部品から成り、ロボットの歴史が詰まった人形ともいえます。

中野さんは「木製でもどのような形状なら丈夫にできるのか、材料力学の観点でとても参考になる」と話していました。



▲朝日新聞(5月13日)

尾形和哉研究室(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

「ロボカップジャパンオープン2013東京」へ参加



5月4日(土)から6日(月)までの3日間、玉川大学で「ロボカップジャパンオープン2013東京」が開催されました。ロボカップは、ラジコンのように人の操作に頼らず、自分で考えて動く自律移動型ロボットたちの競技会です。2050年までに、人間のワールドカップサッカー優勝チームに勝てる、自律移動のヒューマノイドロボットを完成させるという、壮大な目標を立てた研究者、企業、学生が集い、一般の方にも最新の成果を披露

する場として、毎年開催されており、今年はおおよそ300チームもの参加がありました。

その大会に、尾形研究室「DU-ST」チームが参加しました。チームリーダーは大学院2年生の宮村隼人さん。競技種目は「中型ロボトリグ」。縦横50cm未満のロボット5台でチームを構成して、18m×12mのとても大きなフィールドを縦横無尽に駆け回ります。全方向を見渡せるカメラを

載せており、自分とボールの位置をすばやく判断して動き回る迫力満点のリーグです。

年々、各チームのロボット性能が向上しており、今年は、①ボール保持機構(ドリブル機構)の新規作成、②シュートデバイスの改良、③キーパーロボットの新規作成、を中心に準備を進めました。とくにキーパーロボットはこれまで蓄積された機体安定化のノウハウに加えて、メンテナンス性の向上、コントローラの取り扱いの容易さの

向上を目指して開発を進め、見事なロボットが完成しました。

5月4日、5日の予選リーグでは、1勝3敗1分け、6チーム中4位となり、6日の準決勝へ進むものの、強豪Hibikino-Musashi(九州工業大学、日本文理大学)チームに敗れました。試合ではなかなか勝利結果が出ませんが、ロボットの動きは日を追って良くなり、準決勝の試合ではすばらしいディフェンスや、俊敏なキーパーの動きを見ることができました。このように技術課題では満足いく結果が随所に得られています。

最大の技術課題である白線情報による自己位置同定は高いレベルで実行することが確認できましたが、パスプレイなどの高度なソフトウェア技術にはまだまだ課題があります。さらに、そろそろモータ駆動系の劣化が目立ち、大幅な機体の改造も必要な時期に差し掛かっているようです。学生たちは、ロボットの安定動作のためのリアルな困難さに直面し、その中でいろいろなことを学んでいます。また、自分たちの仕事の結果が良い方向にでたときには大きな感動を得ているようです。

吹奏楽団

第27回定期演奏会

3月16日(土)、愛知県女性総合センター「ウィルホール」で、吹奏楽団が定期演奏会を開きました。

演奏に先がけて、井上孝司学生部長(工学部 機械工学科教授)より、「本日はご来場いただきありがとうございます。吹奏楽団の皆さん、来場した人たちに満足してもらえる演奏ができるよう頑張ってください。」と挨拶・激励があり、スタートしました。

第1部シンフォニックステージでは『吹奏楽のための「文明開化の鐘」』『大草原の歌』『GULLIVER'S TRAVELS』を演奏しました。

第2部はこの会の名物となっている企画ステージ。今年のタイトルは『SUPER DAIDO BROTHERS』。マリオブラザーズを題材にとられた姫を助けにいくというストーリー。笑いあり、演奏ありと大いに盛り上がりました。

最終ステージの前に団長の松島弘毅さん(情報学部 情報システム学科 情報ネットワーク専攻3年)より、「1年間いろいろ大変な事が多かったですが、顧問の先生、部員の仲間たちに助けられて、本日の演奏会を迎える事ができました。本当にありがとうございます。」と挨拶があり、第3部のポップスステージへ。計5曲『SING, SING, SING』『アイム・ア・プラスバンド』



『PIRATES OF THE CARIBBEAN : DEAD MAN'S CHEST MEDLEY』『ディズニー・プリンセス・メドレー』を演奏しました。それぞれの曲

で、卒団者が前に出て演奏するパフォーマンスがあり、この会を大いに盛り上げてくれました。

柴田学区の 交通安全パレードに参加

5月19日(日)、地域の交通安全意識を高めようと毎年行われている「柴田学区の交通安全パレード」に吹奏楽団が参加しました。パレードは、柴田小学校をスタートし、大同町駅、本学、白水公園を通り学区を一周して柴田小学校へ

戻ってくるという道のり。公民会、女性部、子ども会、老人会、消防団、ちびっこ警察官など、およそ200人が参加。地域を1時間ほどパレードし、交通安全を呼びかけました。

吹奏楽団は、地域の人たちに喜んでもらえる

よう、8月に開催される柴田商店街七夕まつりでも演奏する予定です。ぜひ聴きにきてください。



情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

日立デザイン本部主任デザイナー 峯元長氏の講演会を開催しました

5月9日(木)、日立デザイン本部主任デザイナーである峯元長氏が来学し、「Hitachi Design Now」と題して講演会を開催、情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の学生が参加しました。

講演会では、日立のデザイン部門の業務概要から、個々のデザイン分野でのデザインの仕方や、具体的な事例などが紹介されました。1時間半の講演を予定していましたが、熱心な学生からの質問が続き、2時間半にも及ぶ講演会となりました。



峯元氏の講演内容

- 峯元氏は1993年に多摩美術大学のプロダクトデザインを出て日立製作所に入社。その後、日立のデザイン部門に従事。日立グループのさまざまな製品を幅広く経験し、現在はユーザーエクスペリエンス研究部に所属。ユーザーの利用視点でデザインの課題を研究する部門で活動されている。
- 日立デザインの対象とする製品範囲は広く、情報・通信機器、鉄道車両、医療機器、建設機械、家電などにわたる。知名度が高い家電分野は業務的には外部の人間が想像するより少なくなっている。
- 一つの部署だけを長く経験するというより、いろいろな経験を積んでいくことができるし、所属以外の部署の業務が面白ければその仕事にかかわることも比較的柔軟に可能。
- 職場のレイアウトなども、オープンなところでミーティングをするなど、他部署の人間へも開かれた雰囲気の中で仕事が行われている。
- また、峯元氏は法政大学デザイン工学部・大学院デザイン工学研究科で非常勤講師をされている関係から、卒業生の就活作戦や作品集づくりについても相談に乗っているとのこと、その辺のコツについても説明があった。

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

メディアデザイン専攻の学生が制作、触ると動くiPad専用紙芝居アプリがリリースされました

昨年9月から現4年生を中心に制作を行ってきた、触ると動くiPad専用紙芝居アプリのカラクリBOOKS岡崎版『滝山寺のとれなくなった鬼面』が完成し、4月26日(金)にApp Storeでリリースされました。

イラストやサウンド、プログラミング、制作指揮

など、制作にかかわることのすべてをメディアデザイン専攻の学生が行い作り上げていきました。イラスト担当は、カラクリBOOKSの主宰の筒井潔さんと何度もイメージを検討・推敲し、作品に合ったデザイン制作を心がけ、サウンド担当は、鬼祭りの様子を映像で確認したり、実

際に現地へ出向き録音をしたりするなどして、作品に緊張感が出るように各々が良い作品を作ろうと工夫を重ね、完成にいたりしました。

是非、本アプリをダウンロードして、地域の民話に触れてみてください。



『滝山寺のとれなくなった鬼面』App Store

<https://itunes.apple.com/jp/app/long-shan-sinotorenakunatta/id639148689?mt=8>

制作メンバー

ディレクター…安藤祐基

イラスト…綾優一/伊藤久祥/奥井達也/川島有加里

サウンド…高木潤/宮丸綾乃/米津未紗樹

プログラミング…伊藤嘉紀/今村卓弘/尾尾涼兵(OB)/北野義樹(OB)/三根生龍一(OB)

制作協力

情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 高木 基充 教授

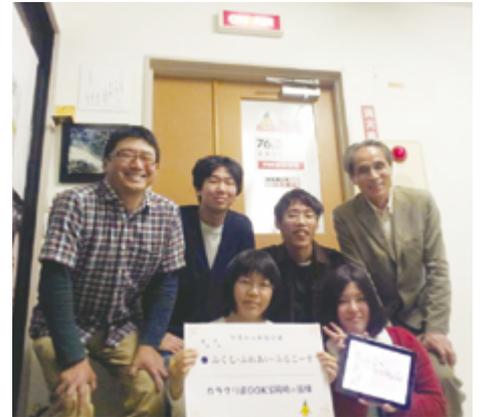
情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 定國 伸吾 講師

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

カラクリBOOKS岡崎版 『滝山寺のとれなくなった鬼面』制作メンバー、 FMおかざきのラジオ番組に出演

昨年9月から現4年生を中心に制作を行ってきた、触ると動くiPad専用紙芝居アプリのカラクリBOOKS岡崎版『滝山寺のとれなくなった鬼面』。このアプリを制作してきたメディアデザイン専攻の学生が、5月7日(火)にFMおかざきが発信しているラジオ番組『ふくし・ふれあい・ふるこーす』にゲスト出演しました。

カラクリBOOKS主宰の筒井潔さん、物語の監修をした岡崎むかし館主任専門員の野本欽也さん両名とともに出演したのは、メディアデザイン専攻4年生安藤祐基さん、伊藤嘉紀さん、川島有加里さん、宮丸綾乃さんの4人。番組内でカラクリBOOKSの意義や民話の解説、制作するにあたっての感想などを伝えました。



カラクリBOOKS岡崎版『滝山寺のとれなくなった鬼面』 制作メンバー、小学校で講演

昨年9月から現4年生を中心に制作を行ってきた、触ると動くiPad専用紙芝居アプリのカラクリBOOKS岡崎版『滝山寺のとれなくなった鬼面』を用いた体験授業を、5月10日(金)に、作品の舞台となった滝山寺の近くにある岡崎市立常盤小学校で行いました。

小学校6年生の2クラスを対象とした体験授業。物語の監修をした岡崎むかし館主任専門員の野本欽也さんによる、物語の題材となった民話の解説や実際にアプリを体験してもらう実演、そしてカラクリBOOKS主宰の筒井潔さんによるインターネットメディアにおける危険性について

の講習を行いました。

カラクリBOOKSを実際に体験した子どもたちは、タッチすると音が出たりイラストが動いたりする仕掛けを楽しみながら物語を読み進めていました。



工学部 建築学科 建築専攻 / インテリアデザイン専攻

「中川運河再生をになう学生提案発表会」を開催しました

6月11日(火)～6月16日(日)の6日間、名古屋都市センター11階で「中川運河の再生をになう学生提案発表会」が開催されました。この

発表会は昨年度の建築学科「C-Scape」授業の学生作品を展示したもので、教育交流として参加したミラノ工科大学(イタリア)と名古屋大

学の学生作品もともに展示されました。

テーマは、中川運河の歴史や眠った価値を再発見し、「中川運河沿いのこれからの住まい方」や「中川運河を活かした都市空間の再生」の提案。公共による排水規制やヘドロ除去が行われる一方、アーティストの活動拠点づくりの活動も行われている名古屋市の中川運河周辺地域を舞台に、学生たちが個性あふれる作品を提案しました。

開催期間中の14日(金)夕方には発表会が行われ、学生たちが作品のプレゼンテーションを行いました。



杉本幸雄研究室・上岡和弘研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) 愛知ブランド企業PR動画作成事業、進行中!

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の杉本研究室と上岡研究室が合同で、「愛知ブランド企業PR動画作成事業」を愛知県とともに進めています。

愛知ブランド企業とは、県内の優れたものづくり企業の実力を広く国内外にアピールし、愛知のものづくりを世界的ブランドへと展開するため、愛知県が認定。

メディアデザイン専攻の学生は、これまでも「愛知の“こだわり特産品”CMプロジェクト」と題した、インターネット動画を使った愛知県のPR施策にも協力しています。

6月6日(木)には出演企業である、精密加工部品の加工を主とする金属加工メーカーの鬼

頭精機製作所(愛知県豊田市)へ訪問し、第1回目の打ち合わせを行いました。杉本研究室と上岡研究室の学生6人が訪問。会社の仕事内容について取材するとともに、動画制作の方向性について話し合いました。学生たちにとっては初



めの取材で、スーツに身を包みかなり緊張していましたが、鬼頭社長の配慮で滞りなく進みました。その後、工場内の見学やエンジニアの皆さまの生の声を聞くなど、貴重な体験となりました。



堀美知郎研究室(機械工学科)

三重県立四日市工業高等学校、燃料電池製作を体験

6月10日(月)、三重県立四日市工業高等学校電子機械科の39人が、燃料電池製作体験のため来学しました。堀教授や大学院生の説明

により燃料電池研究センターの設備を見学したあと、講義を受け、燃料電池製作を体験。

燃料電池研究センターでは、次世代エネル

ギー「燃料電池」について、少しでも興味を持ってもらえるよう地域の高校生や企業の方向けに出前授業を積極的にを行っています。



情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

お笑い芸人サムタイムズを招いて、 講義「お笑いから学ぶ・コミュニケーション力」を開催

1年生対象のオリエンテーション合宿を終えた翌日の6月24日(月)、「情報デザイン入門セミナー」において、「お笑いから学ぶ・コミュニケーション力」と題した講義をゴビーホールで行いました。(担当教員:杉本幸雄教授)

当日ゲストとして出演していただいたのは、なごやよしものお笑い芸人サムタイムズの井上

さんと増田さんのお二人。漫才あり、小島一宏准教授とのラジオ公開録音風のトークありと盛りだくさんの内容で90分の講義は瞬く間に過ぎていきました。

「ボケとツッコミの妙を感じ取って、日頃の会話に活かせれば、友達作りや社会に出てからも使えるよ」とサムタイムズからのメッセージ。途

中、芸能界のちょっとしたウラ話なども聞くことができ、芸人さんたちの苦労もちょっぴり分かったようです。

講義後、サムタイムズと記念写真を撮ったり、握手したり。和やかな雰囲気とともに、楽しい時間を過ごすことができました。



大嶋和彦副学長(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻教授) 名古屋女子大学中学校・高等学校で講演

5月11日(土)、名古屋女子大学中学校・高等学校の土曜講座で大嶋副学長が講演を行いました。

この土曜講座は、講演・見学・体験・発表などを通して多くのことを知り、考え、行動することにより、知的探究心を養う授業。学ぶことに対するモチベーションを上げ、将来の学びに

して興味関心を深め、視野を広げることなどを目的としています。

大嶋副学長は、「音で理解する信号処理のおもしろ実験」と題して、音とは何か?という基本的な概念やさまざまな信号処理の方法を、実際に音を出して説明。1時間半の講演を行いました。



東海地区電気教育研究会で、基調講演

5月14日(火)、本学において愛知・岐阜・三重・静岡の工業高校電気系学科教員を対象とした、東海地区電気教育研究会が開催されました。

研究会の研修会にはおよそ50人の教員が参加。大嶋副学長が基調講演を行いました。大嶋副学長は、「音で理解する信号処理のおもしろ実験」と題して、講演。たくさんの実演を交えながら、自身の授業手法を紹介しました。

また、研修会のあとには学内見学会を実施。

佐藤義久研究室(工学部 電気電子工学科)の高電圧設備や形状記憶合金エンジンを使った新発電システムの開発、都市型小型風力発

電機の開発について、佐藤教授と研究室の指導学生たちが説明しました。



山田靖 教授(工学部 電気電子工学科) 大電流パワーモジュール実装プロジェクトに参画

4月から、研究プロジェクト「SiC等大電流パワーモジュール用実装材料開発・評価支援PJ(通称KAMOME-PJ)」に、山田教授が参画することとなりました。これは、電気自動車等のインバータに用いられるパワー半導体の実装技術に関するもので、次世代パワー半導体であるSiC等の250°C程度の高温動作の実現をめざして、2年間の期間、産学官で連携して進めるものです。

山田教授は同プロジェクトのアドバイザーに就任し、4月18日(木)に横浜国立大学で開催されたキックオフミーティングで、パワー半導体の接合技術に関する講演を行いました。今後は共同研究も進めていく予定です。



鷺見哲也准教授(工学部 建築学科 土木・環境専攻)

コミュニティーFM「エフエムななみ」の開局イベントで講演

4月20日(土)、蟹江中央公民館でコミュニティーFM「エフエムななみ」の開局イベントが開催されました。このイベントは、西尾張シーエーティーヴィ(クローバーTV)が防災をメインテーマに開いたもので、鷺見准教授が「低平地に住む私たちは災害とどう向き合うか」と題して1時間半の講演を行いました。

鷺見准教授は、津波・高潮をはじめ、西尾張海部地域の低平地での水災害への意識と備えについて講演。また、東日本大震災で東北に行っている経験から、ラジオの災害後の役割についても語り、「大きな放送局からは細かい情報が届かない。コミュニティーFMは地域の情報が流れるという点で役立つ」と地元メディア

の重要性を指摘しました。

このイベントの様子は、コミュニティーFM「エフエムななみ」、クローバーTVで放送されたほか、4月21日(日)の中日新聞尾張版で紹介されました。

岩手県大槌町で自噴井戸の一斉調査を実施

5月19日(日)、鷺見准教授らが、岩手県大槌町町方地区で、自噴井戸の一斉調査を実施しました。この調査は、大槌町生涯学習課主催、鷺見准教授指導のもと行われました。町内

外の人たちや、ボランティアとして参加したスタッフ、町生涯学習課の職員などおよそ200人が参加しました。地下水位の標高や水温、電気伝導度について調査。自噴井戸は、今回の

調査も含めこれまでに170ヵ所以上確認されています。鷺見准教授は、今後震災後のまちづくりにおいて、どのように活かすかが課題だと話しています。

名古屋市生涯学習推進センター公開講座で講演

7月2日(火)の午後、名古屋市の大学連携講座「研究最前線!大学の知を学ぶ」の第3回が中区の女性会館で開かれ、鷺見准教授が「東海の水災害を考える」と題して、この地域の水災害について講演しました。

鷺見准教授は、東日本大震災以降32回にわたり現地入りしており、災害当初からの復興の進む被災地での状況を伝えるとともに、発生が予想されている南海トラフ地震の予測情報やその解釈について解説しました。

また、当地域は津波以上に高潮災害のリスクが最も高く、54年前の伊勢湾台風に記憶を

留める高潮災害のメカニズムや対策の現状、一人ひとりの対応のあり方について言及しました。一方で元々の専門であるゲリラ豪雨と様々な水災害の知識、各河川の現状などについても解説しました。



およそ40名の聴講者の関心の中心は津波やゲリラ豪雨にあったようですが、自然災害の起こるしくみ、まちづくりのあり方、情報収集など、内容は多岐にわたっても、熱心に聞いていました。



青山正治教授(工学部 機械工学科)

東海テレビ『スーパーニュース』に取材協力

5月23日(木)、東海テレビ『スーパーニュース』の“今日は何の日”のコーナーで21年前(1992年)に開催された本学の大学祭内のイベントが紹介されました。紹介されたのは、当

時の大学祭の目玉企画、戦国時代の鉄づくりを再現するイベント。鉄鉱石、石炭、貝殻を順番に入れて1300~1400℃の高温で熱し、自転車で風を送って鉄をつくる工程が実演されて

いました。このイベントについて、青山教授が電話で取材協力に応じ、愛知県小牧市から出土した遺跡をもとに、なるべく忠実に当時の製法を再現していたことを説明しました。

平博仁教授(工学部 総合機械工学科 機械システム専攻)

一般社団法人 溶接学会でフェローに認定されました

一般社団法人 溶接学会 春の大会において、溶接・接合に関する工学・技術と社会および学会の発展に顕著な貢献をした人に与えられる溶接学会フェローに、平教授が認定されました。



大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

CBC『イッポウ』 特集“災害への備えに注目 井戸で生活用水を”でコメント



5月30日(木)、CBC『イッポウ』(毎週月～金、16:50～19:00放送)で大東教授がコメントし

ました。テーマは“災害への備えに注目 井戸で生活用水を”。

東日本大震災以降、私たちの生活を支えている「水」のあり方が注目を集め、生活用水の供給方法として井戸が見直されています。名古屋市には災害応急用井戸が708ヵ所あり、災害の備えとして病院や大学、スーパーなどでも地下水の利用が進んでいます。しかし、そこで心配になるのが地盤沈下の問題。大東教授はこの問題について「濃尾平野はもともと地下水が豊富

な地域。工業用の地下水利用が大幅に規制されてからは地下水も増えて水資源に余裕ができてきた。生き延びるために地下水を有効利用することが大事」とコメントし、地盤沈下の可能性は低いと提言しました。

この特集は6月3日(月)、CBC『ゴゴスマ』(毎週月～金、13:55～15:50放送)でも紹介されました。

新刊紹介

『表面科学の基礎(現代表面科学シリーズ2)』

共著:堀尾吉巳教授(工学部 電気電子工学科)

表面科学は物理学、化学、材料学、結晶学、真空工学など、広範囲の知識の上にはじめて成り立つ応用学問であると同時に、半導体産業の微細加工から太陽電池、人工心臓や人工関節の開発、それらに必須である計測・分析装置にとって必要な基礎学問であるともいえる。そこで本書では次のような構成で表面科学の基礎を解説している。

表面の定義とそこで起こる現象を入口に、結晶学の基礎、表面ゆへの緩和・再構成やダングリングボンド、吸着物による表面終端まで幅広く取り上げ、半導体表面や金属表面などの実例を示す。次に、電子分光による表面電子状態の解析を中心に、実際の評価法やそれに用いられるクラスター計算について、また表面のダイナミクスにおける最近の超高速現象の研究結果の物理的意味を取り上げる。さらに表面の分析法としてX線、イオン、電子、アトムプローブとプローブ別に解説し、最後に今や表面科学になくはならない理論計算を取り上げる。

堀尾教授は「第5章 表面の分析法」の5.9節を執筆しました。

編集:日本表面科学会 発行日:2013年6月25日
担当編集幹事:板倉明子 定価:3,500円+税
出版社:共立出版



『電気のおくみ 発電・送電・電力システム』

著者:佐藤義久教授(工学部 電気電子工学科)

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故をきっかけに、電気に関する関心が高まっているが、適切な入門書が不足している。そこで、本書は電気をつくるしくみや、電気エネルギーの供給を考えるうえで必要な、電気に関する基本的事柄を数式を極力使わず、やさしく解説した。今後導入が急がれる再生可能エネルギー発電や、従来型の水力発電・火力発電・原子力発電のしくみと、それらの長所・短所と現状、さらに送電の基礎や未来の電力システムについて、見開き構成でテーマごとに取り上げて、豊富な図表を用いてわかりやすく解説した。



出版社:丸善出版
定価:2,415円(税込)
A5判・242頁

『エミリ・ブロンテの日記』

共訳:松井豊次准教授(教養部 外国語教室)

『エミリ・ブロンテの日記』は、作者サラ・フェルミの15年に亘る研究成果が結実したものである。フェルミは、「エミリには『嵐が丘』や詩を個人的に書かざるを得ないような現実的な理由があったのだ」という推論を長く抱き、エミリに関する事実や状況証拠や歴史的状況などを丁寧に探っていった。そして遂に、エミリの相手らしき恋人像に行き着いた。現存する資料を駆使し、フィクションとしてエミリの実像に迫ろうとする本書は、新しいエミリ像を感銘深く伝えている。

松井准教授は、133頁から140頁まで翻訳を担当しました。

サラ・フェルミ著
内田能嗣・清水伊津代・前田淑江監訳
出版社:大阪教育図書
定価:3,570円(税込)
A5判・262頁





大学創立50周年記念事業シリーズ講演第1回 伊達賢講演会を開催しました

5月31日(金)、本学ゴビーホールで大学創立50周年記念事業のシリーズ講演第1回、伊達賢講演会「世界を経験し、日本を創る」を開催しました。伊達さんはロンドン芸術大学・セントラル・セント・マーチンズ・カレッジを卒業後、自身でアートデザインブランドを立ち上げ、今現在クリエイティブディレクターとしてヨーロッパを中心に活躍されています。

講演当日は小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)が司会を務め、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻とプロダクトデザイン専攻の1年生が授業「情報デザイン入門セミナー」の一環として聴講したほか、教職員や学外の方などたくさんの方々が参加しました。

講演は、渡英に至るまでの経緯、海外で学び、生活した中で感じた文化の違いなど、実体験をもとにした話題を中心に進められました。自身がデザインしたイラストや服の紹介、ファッションショーのコンセプトの説明などを交えて伊達さんの世界観が表現されており、学生たちはメモをとりながら熱心に聴講していました。伊達さんは「環境を変えて文化を学ぶことで新し

い自分を築き上げることができる。海外の経験を日本に持ち帰って活かしていったら欲しい。」というメッセージで講演を締めくくりました。

講演後の質疑応答では、たくさんの学生の手が上がりました。質問内容はデザインする上での心構えやコミュニケーションの取り方など多岐にわたりました。

これからデザインを学んでいく学生たちは最前線で活躍しているデザイナーのお話にたくさん刺激を受けたようです。



■伊達賢さんのHP <http://www.satoshidate.com/>



元気の卒業生 本学卒業生、桃介橋の歩道照明を担当し、 日本照明学会から受賞

⑱

本学卒業生で、日本街路灯製造株式会社に勤めている若松寿さん(67E)が、大同大学の祖、福沢桃介ゆかりの橋である桃介橋の歩道照明を担当し、日本照明学会から「照明普及賞」を受賞しました。

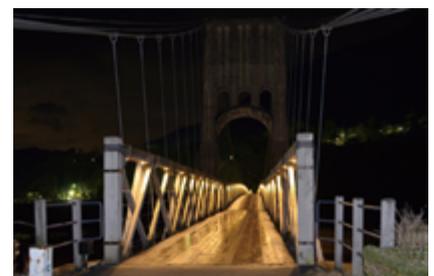
国道19号線を名古屋から木曾駒ゼミナーハウスへ向かう長野県の南玄関、南木曾町に入ると国道を大きくまたぐ木橋があります。これが、桃介橋。木曾川の水力を利用して電気に替える為に南木曾駅からダム建設地への資材運搬に使われた木造吊り橋で、大正11年に完成し

た時の原型そのままに全長およそ250m、近代化遺産に認定されています。現在は旧中山道から国道(自動車道)を通らずに安全に渡れる歩道となっています。今回若松さんは、この桃介橋の歩道照明を担当しました。

役場から①釘を打ってはならない、②傷をつけてはならない、という条件が与えられる中、若松さんは、照明器具の取り付けに工夫とアイデアで条件をクリアしていきました。河川環境をできるだけあかりで汚さないよう気を配り、明るさは設置環境(星空が見える暗さ)とのバランス

をとることを考慮し、照明に使われる電力は350Wで済むよう、工夫しました。この橋を昼間に渡った人からはどこに照明器具があるのかわからないとのクレームが来るほどで、美しい吊り橋のフォルムを写しだしています。

この照明施設は、日本照明学会から高い評価を受けて、5月23日(木)に「照明普及賞」を受賞しました。来年には、東京・ビッグサイトで開かれる“LED NEXT STAGE”で全国10件の最優秀候補発表のキップも手にしました。



中日信用金庫と産学連携協定を締結しました

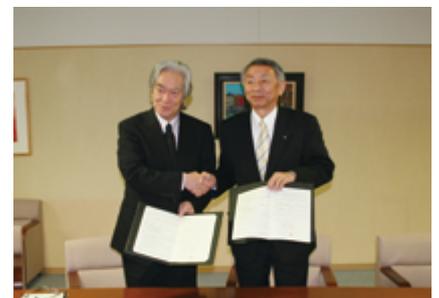
4月24日(水)、中日信用金庫の山田功理事長と本学澤岡昭学長らが出席し、産学連携協定書の調印式を行いました。本学と中日信用金庫の取引先である中小零細企業との技術協力が目的。本学からは澤岡学長、水澤富作副学長(工学部 建築学科 土木・環境専攻教授)、光田恵教授(産学連携共同研究センター長/情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)、山田靖教授(産学連携共同研究副センター長/工学部

電気電子工学科)が出席しました。

中日信用金庫の山田理事長は、「中小零細企業は技術があっても、多方面にわたり活かすきれない現状がある。大学と連携することで可能性を広げていきたい。」とお話をされました。本学澤岡学長は、「大同大学としては金融機関と協定を締結するのは今回が初めて。今年度中に一つか二つ具体的な取り組みを進め、着実に成果を出せていけたらと思っている。」と期

待しています。

この情報は、4月25日(木)の中部経済新聞に掲載されました。



▲澤岡学長(左)と山田理事長(右)

元気の卒業生 ⑳ テレビ朝日『大改造!!劇的ビフォーアフター』に本学卒業生が“匠”として最多出演



1981年度卒業生で、現在は本学建築学科の非常勤講師も務めながら建築家として活躍する柴田達志さんが、6月2日(日)放送のテレビ朝日『大改造!!劇的ビフォーアフター』に“匠”として登場しました。柴田さんは、“匠”として最多登場。これまでも“女子マネ泣かせの部室”、“バケツのお風呂に入る家”など、さまざまな物件を手がけています。

今回、柴田さんが手がけたのは“闘魂燃え尽きそうな寮”。老朽化がひどく、鉄骨がさびれていたり、壊れた土台をガムテープだけで補修していたり、いつ崩れてもおかしくない状態の新日本プロレス選手寮が“匠”の手によって生まれ変わりました。寮、風呂場、道場を一続きにし移動しやすくなった玄関ロビーや機能を分けた大広間、癒しの空間に生まれ変わった

風呂場などこれまでの寮の問題点を解決。それと同時に多くの名選手たちも上り下りした階段の踏み板の再利用や、歴代のレスラーが受け継いできた伝統のロッカーを配置するなど新日本プロレスの40年の歴史も残しました。

柴田さんの活躍は同番組ホームページの「これまでの放送リスト」からもご確認いただけます。

大改造!!劇的ビフォーアフターHP <http://asahi.co.jp/beforeafter>





東日本大震災被災中小企業復興支援再生PC寄贈プロジェクト、無事終了。

本学も会員となっている「大学ICT推進協議会」と「東北六県商工会議所連合会」等が協力して行ってきた「東日本大震災被災中小企業復興支援再生PC寄贈プロジェクト」がこのほど終了しました。このプロジェクトは東日本大震災で被災した三県(岩手、宮城、福島)で事業再開に取り組む中小企業に、大学で保有している使用済みのパソコンを集め、再生した上で無償提供するというもの。

本学もこのプロジェクトの方針に賛同し、合計19台のパソコンを寄贈しました。昨年1月のプロジェクト開始以降、全国の国公立大学から956台のパソコンの寄贈申し入れがあり、このたび、希望を出していたすべての被災中小企業へパソコンを寄贈し、プロジェクトを終了しました。

また、今回のパソコンの寄贈をうけて、日本商工会議所から感謝状をいただきました。



この情報は、日本商工会議所が発行している会議所ニュースでも紹介されました。

韓山師範学院(中国)と学生交流に関する覚書を取り交わしました

5月8日(水)、本学において韓山師範学院との学生交流に関する覚書の調印式が行われました。韓山師範学院とは平成24年4月に学術交流に関する包括協定を締結しています。ま

た、同日は今後の交流を見据え、本学工学部総合機械工学科 ロボティクス専攻と情報学部情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の専攻紹介、施設見学を行いました。この覚書によ

り、韓山師範学院との学生交流が活発に行われることが期待されます。



▲陳書記(左)と澤岡学長(右)



高大連携プロジェクト「総合学習 色彩の不思議な世界」を行いました

6月25日(火)、大同大学大同高等学校との高大連携プロジェクトの一環として「総合学習 色彩の不思議な世界」が行われ、DUコースに在籍する1年生58名が参加しました。

授業を担当したのは情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻の横井健二教授。色彩と人の心理や、色とは何か、色の表し方、混色についてなどをビデオを交えて紹介しました。授業の後半では厚紙と爪楊枝を利用して作成した「コマ」を使って混色についての実

験が行われました。生徒たちはそれぞれ厚紙に好きな色を塗って、回した時に色がどのように

変化して見えるかを楽しみながら学びました。



人事

●採用

【法人本部・大学】

<事務職員>(H25.7.1)

亀井 正隆 総務部 管財室 主任部員

<嘱託職員>(任期:H25.7.1~H26.6.30) 井原 佳代 工学部 建築学科